



小中一貫教育だより
 学校教育課・教育センター版
 令和7年10月1日 No.50
 (小中一貫教育推進だよりから 通算No.120)
 十日町市教育委員会学校教育課



伊佐貢一先生の「居心地のよい学級づくりアドバイザー学校訪問」(左:中条小学校、右:東小学校)
 写真の説明は9ページ

巻頭言 『認めることと主体性』

教育センター指導主事 徳井 洋介

どの学校でも夏休みに自由課題（発明工夫・模型工作・科学研究など）が課題の一つとして、子どもたちに提示されています。例年、親子で何をやるか相談したり、頭を悩ませたりしているのではないのでしょうか。我が家でも同様です。

親：「今年の自由課題、何にする。絵画とかもあるよ。課題一覧表印刷しようか。」

子：「うーん。その中にやりたいのがないんだよね。」

親：「何かやりたいことあるの。」

子：「ダメだと思うけど、アイドル辞典を作りたいんだよね。」

親：「何でアイドル辞典を作りたいの。」

子：「私の推しのアイドルをたくさんの人に知ってもらいたいから。」

普段、先生から言われたこと（宿題）は必ずやるが、自主的に学習することが少ない我が子が自分からやりたいことを意思表示したのです。この気持ちを大切にしたいという（親の）思いと、アイドル辞典は認めてよい課題なのかという（教師の）思いが交錯。夫婦会談では、「恐竜図鑑や車図鑑はありだから、アイドル辞典もありなのではないか。」「確かに。コンクールに出したいとかでないからいいね。」後日、我が子にOKだと伝えると、普段見せないうれしそうな笑顔。

それから毎日、自分から黙々とアイドル辞典制作に励み、世界に一つしかないアイドル辞典を完成させました。やりたいことに没頭する我が子の姿から、親としても教師としてもできることは、子どもの意思を尊重し、可能な限り認めることだと感じました。

我が子の将来の夢は「アイドル」です。今、その夢に向かい、歌と踊りの練習を毎日行っています。夏休み明けには、友達と二人で単独ライブを企画し、学校で休み時間に実践したようです。夏休みに毎日一緒に練習し、ポスターやライブチケットまで作っていました。このような我が子の行動を否定せず、受け入れてくださった先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。

小中一貫教育

■ 実践に生きる全体研修を振り返って

8月6日（水）に文部科学省 初等中等教育局の田村学主任視学官を講師として、令和7年度小中一貫教育全体研修会を行いました。市内の小・中・特別支援学校の教職員の他、保育園・認定こども園や津南町からも参加者を得て、実施することができました。

演題「『主体的・対話的で深い学び』と探究 ～個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実～」の中で、特に『深い学び』について示唆に富んだお話をいただきました。

研修後のアンケートからも学びが多かったという言葉が多く、嬉しく思います。アンケート結果から一部を紹介します。

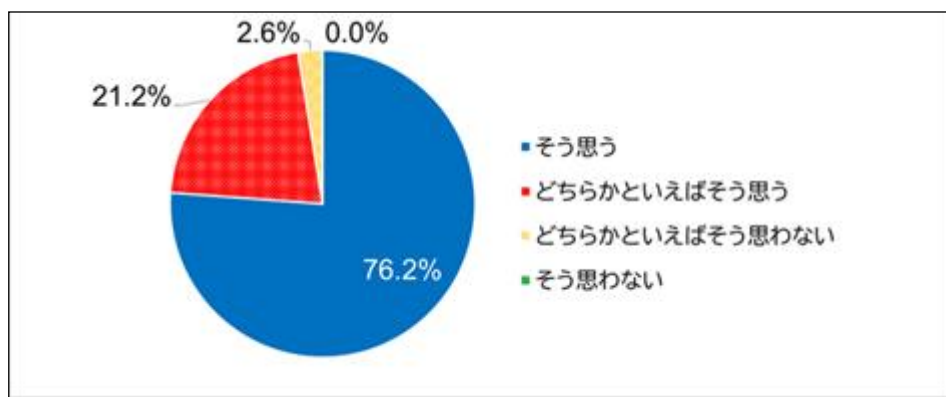
「研修内容は、あなたの中学校校区の小中一貫教育を推進するために役立つと感じましたか？」に対する結果は下のグラフの通りです。本研修は、小中一貫教育のねらい中でも学力向上に重きを置いて実施しました。学力向上のためには、授業改善に向けた不断の努力が欠かせません。

「研修内容について、あなた自身またはあなたの学校の授業改善に役立つと思うことを記入してください。」について書いてもらった内容をまとめてみました。

1 授業の進め方や工夫について

授業づくりに関

しては、「子どもが主体となる学び」に関心をもつ声が多く見られました。



- ・「子ども同士の対話を大切にしたい」
- ・「小さな問いかけを積み重ねることで学びが深まると感じた」

といった意見からも分かるように、一方的な説明ではなく、子どもたちが自分の考えを出し合い、つなげていく授業を意識するきっかけとなったようです。

2 児童理解・学級経営の視点について

授業改善と同時に、子どもとの関わり方について考えさせられたという声もありました。

- ・「子どもの安心感を大切にすることで学びが深まる」
- ・「発言しやすい雰囲気づくりを工夫したい」

といった意見から、心理的な安心感を保障することが、学びの基盤となることを再確認されたことが分かります。学級経営の視点からも、研修内容を授業に結びつけて考えている様子が見えられました。

3 見取りの重要性と評価や振り返りの工夫について

評価や学びの振り返りについても多くのご意見がありました。

- ・「振り返りシートを使って、子ども自身が学びを見直すことが授業改善につながる」
- ・「形成的評価を、授業の流れの中に自然に取り入れていきたい」

といった感想が寄せられています。テストや成果だけでなく、日々の授業の中で子どもの成長を丁寧に見取っていくことの大切さを、改めて確認する機会となりました。

4 振り返りを書くことの重要性について

授業後の振り返りを書くことの重要性についての声が数多くありました。

- ・「『ちょっと長めの文字言語』を振り返りに生かしていきたい」
- ・「振り返りの記述を設定できるように授業構成を見直したい」

といった意見から、授業において知識（経験）をつなぐためには、振り返りの活動が重要であることが分かります。さらには、デジタル、アナログを問わずに長い文章で書く必要性が述べられていました。

5 ICTや教材の活用について

ICTや教材の活用に関しては、具体的なアイデアがすぐに役立つとの声がありました。

- ・「タブレットを使って意見を共有する方法を試してみたい」
- ・「ワークシートの工夫をすぐに実践できそう」

といった感想に見られるように、先生方が「すぐに授業で活かせる」と感じられたことが大きな収穫でした。ICTの利便性ととも、教材の工夫によって子どもの学びが広がることを実感されたようです。



6 授業改善への意欲について

今回の研修を通じて「やってみたい」という前向きな声も数多くありました。

- ・「明日の授業から取り入れてみたい」
- ・「授業改善の視点が広がった」

といった意見は、先生方が実際の実践へとつなげていこうとする強い意欲を表しています。

今回の研修では、授業の工夫、評価や振り返り、ICTの活用、児童理解など、さまざまな角度から学びが得られたことが分かりました。特に「すぐに実践できる具体的なヒントがあった」「授業改善への意欲が高まった」という声が多く、先生方にとって有意義な時間となったようです。

これらの気づきを各学校・中学校区で共有し合い、少しずつ授業改善につなげていくことで、子どもたちの学びがより豊かになっていくことを期待します。

教育相談班より

■ 1学期の「不登校・いじめ認知」の状況

○不登校の状況（令和7年4～7月） ※（ ）内は、昨年度同時期の値

	小学生	中学生	小中 計
不登校児童生徒の割合	0.21% (0.4%)	2.93% (3.39%)	1.13% (1.39%)

不登校児童生徒の割合を昨年度の同時期と比較すると、**小学生、中学生共に減**となりました。新規の不登校児童生徒の割合については、**R6 : 0.13% → R7 : 0.17%**とたいへん低い発生率を保っています。引き続き、**課題予防的生徒指導**によるきめ細やかな対応・支援をお願いします。

<課題予防的生徒指導> ※「生徒指導提要」を踏まえた十日町市の取組

●課題未然防止教育

- ・**SOSを出すこと**の大切さを気づかせる
→ 「**SOSの出し方に関する教育**」の**年1回実施**
- ・教職員の相談力向上のための取組 → **教育相談体制の構築**

●課題早期発見対応

- ・教職員の**受信力向上と情報共有**
→ **不登校対策校内委員会（ケース会議）**の開催
欠席3日以上の子どもの**児童生徒の把握と報告**
- ・保健室、相談室との連携 → **相談員、SC、SSWの活用**
- ・保護者との日ごろからの関係づくり → **子どもとともに1・2・3運動**



○いじめ認知の状況（令和7年4～7月） ※（ ）内は、昨年度同時期の値

	小学生	中学生	小中 計
いじめ認知件数	70 (102)	38 (23)	108 (125)
1,000人あたりの認知件数	36.3 (50.8)	38.3 (23.0)	37.0 (28.5)

いじめ認知件数及び割合において、小学生は減少、中学生は微増となりました。
1学期末現在、認知件数は昨年度同時期に比べ**小学生 1.34 倍、中学生 1.24 倍**です。今後も、積極的な認知とともに、**課題予防的生徒指導**による取組・対応をお願いします。

<課題予防的生徒指導> ※「生徒指導提要」を踏まえた十日町市の取組

●課題未然防止教育

- ・いじめ関係法令に関する教職員研修の実施
- ・「学校いじめ基本方針」の**保護者・地域への周知** →学校HPへの掲載
- ・SNS等ネットトラブルに係るいじめ事案の未然防止
→「新潟県SNS教育プログラム」を活用した**情報モラル教育**の徹底
- ・「いじめ見逃しゼロ運動」の推進

●課題早期発見対応

- ・いじめに気付くための組織的な取組
→**児童生徒アンケート**の定期的な実施
→**教育相談**の定期的な実施



■ **特別支援教育に関する校内支援体制の充実 ～校内委員会の機能強化～**

各校において校内委員会は、機能しているでしょうか。**校長のリーダーシップの下**、児童生徒について幅広く把握し、必要な支援を組織的に対応するための**校内支援体制の充実**が求められています。具体的には、①**通常の学級の中でできる方策**を十分に検討する、②**通級による指導や特別支援学級の必要性を検討**していく、という**段階的な検討のプロセス**が大切です。

ふれあいの丘支援学校のセンター的機能の活用

○学校巡回相談要請訪問

- ・・・特別支援教育にかかわって、対応に苦慮している児童生徒について、授業参観、対応協議を行います。

○ほっと一息ふれあいグリーンタイム

- ・・・日々の悩みや困ったことなど、研修会ではなかなか話せないことを教員同士が気軽に語り合う場です。次回（12月25日木）に開催予定です。

※他にも特別支援研修講座の開催や校内研修への講師派遣も行っています。詳しくは、ふれあいの丘支援学校HPを参照ください。

学習指導班より

※市報 10 月 10 日号に掲載予定の内容を紹介します。

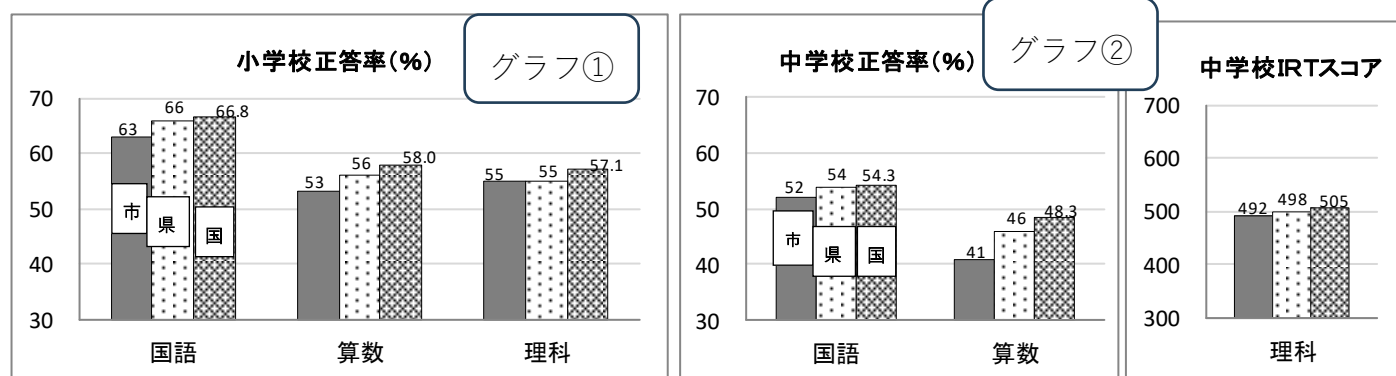
令和7年度 全国学力・学習状況調査結果

ふるさとを愛し 自立して社会で生きる子どもの育成のために

令和7年4月に実施した「全国学力・学習状況調査（対象：小学6年生、中学3年生）」の十日町市の結果をお知らせします。本年度は小学校3教科・中学校3教科の調査が行われました。

この調査は、学校における児童生徒への教育活動の充実や、学習状況の改善等に役立てることを目的にしています。

学力状況（正答率）について（小学校＝国語・算数・理科 中学校＝国語・数学・理科）



小学校の正答率では、国語 63%（県：66%・国：66.8%）、算数 53%（県：56%・国：58.0%）、理科 55%（県：55%・国：57.1%）で、3教科ともに、全国の正答率を下回りました（グラフ①）。

中学校の正答率では、国語 52%（県：54%・国：54.3%）、数学 41%（県：46%・国 48.3%）、理科 492（県：498・国：505）でした。3教科ともに、全国や県の正答率を下回りました（グラフ②）。

中学校の理科は今回から CBT（情報端末を使った試験）となり、IRT スコアを利用しています。IRT とは、項目反応理論のことで国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。これを用いると、幅広い領域内容での調査が可能となり、学力の経年変化を把握できるようになります。

今後の取組

こどもが学校で安心して学び合う環境が学力向上への第一歩であると考え、教育センターでは「居心地のよい学級づくり」を推進しています。さらに、「学ぶ楽しさ」「分かる喜び」を実感できる授業に向けて、こどもの主体性と対話を大切にした授業改善を今後も推進していきます。

また、家庭学習において、こどもにとって「やる気が出る」、「学習する必要感がある」、「達成を感じる」ことを重視し、学校と家庭がより一層連携した取組の工夫を図り、学力向上につなげていきます。

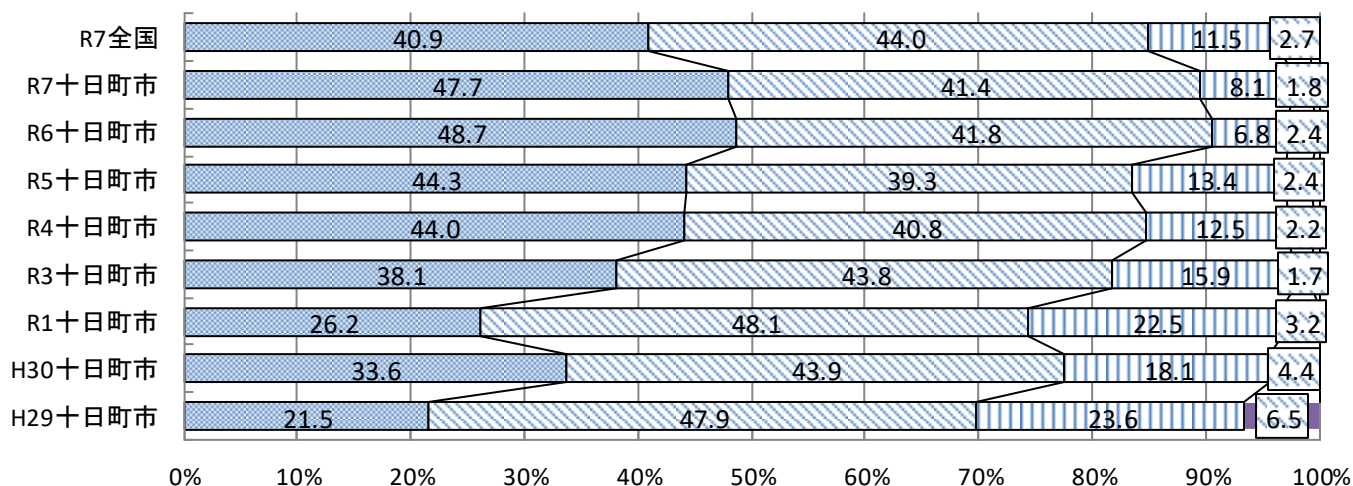
3 質問紙調査 <(5)主体的・対話的で深い学びの視点からの学習への取組について>

※グラフは無回答を除いているため、100%にはなりません。

グラフ③

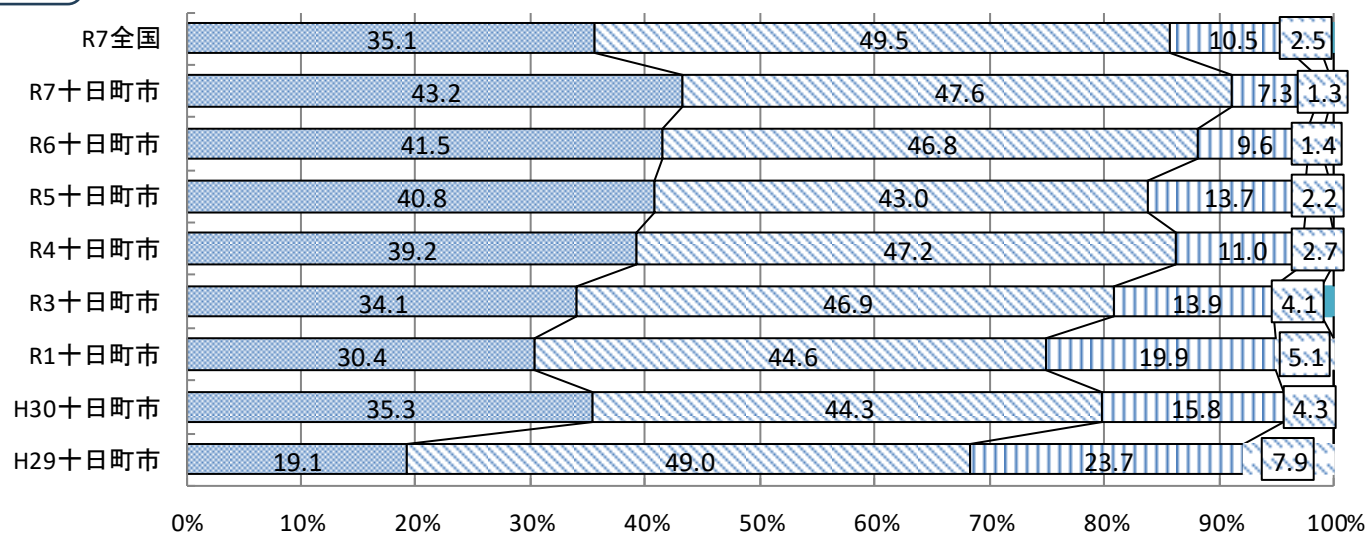
【小】学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか

- 1 当てはまる
2 どちらかといえば当てはまる
3 どちらかといえば当てはまらない
4 当てはまらない
5 学級の友達との間で話し合う活動を行っていない。



グラフ④

【中】学級の生徒の間に話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



平成29年度より学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」を掲げ、「話し合い活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりする学び」の充実を求めています。十日町市においては、この項目に対する肯定的評価の割合が年々上昇しており、令和7年度では、全国に比べ、強い肯定的評価が小学校で6.8%、中学校で8.1%高い状況でした。令和4年度から「居心地のよい学級づくり」と、対話をしながら考えを深めていく授業づくりに積極的に取り組んできた成果が表れています。

今後の取組

主体的・対話的で深い学びをより一層充実させながら、総合的な学習の時間において探究的な学びを推進していきます。教師は「子どもの学びを見取る力を高めていくこと」を目標とし、こどもは「ちょっと長めの文字言語」を合い言葉に、書くことでアウトプットすることに力を入れていきます。探究的な学びの充実を通して、「ふるさとを愛し、自立して社会で生きるこども」の育成につなげていきます。

学校教育課・教育センター事業のお知らせ ～10・11月～

日 時	内 容 ・ 会 場	備 考
10月9日(木)	第4回特別支援教育コーディネーター養成講座「諸検査の活用」 【川西庁舎 1階 地域活動室】	講師：佐藤 翔 様（中里中学校 特別支援学級担任） 鈴木 皓子（学校教育課 臨床心理士） 対象：特別支援教育コーディネーター 特別支援学級担任 等
10月27日(月) ～ 11月7日(金)	WEBQU調査（2回目）の実施	WEBQU 終了後から、事例検討会を行う。
11月6日(木)	新採用・若手事務職員研修 【川西庁舎 教育センター】	講師：教育センター指導主事他
11月13日(木)	エキスパート研修② 公開授業 理科「ものの温まり方」 【十日町小学校】	講師：十日町小学校 徳井 孝介 教諭 対象：希望する全職員
11月13日(木)	人権教育、同和教育教職員研修会 【千手中央コミュニティセンター】	講師：新井 久美子 様（新潟県立 高田農業高校） 対象：市立学校教職員 市関係職員

【表紙写真の説明】

夏季休業中に伊佐貢一先生を講師として「居心地のよい学級づくりアドバイザー学校訪問」（要請研修）を4校で実施しました。7月30日(水)には千手小学校、8月19日(火)には川治小学校、8月21日(木)には中条小学校、8月22日(金)には東小学校で行いました。

伊佐先生は、それぞれの学校の課題に応じて柔軟に内容を組み替えたり、焦点化を図ったりしながら、先生方が学び甲斐を感じる研修をしてくださいました。

WEBQUを活用した学級づくりについては、WEBQUの基礎から学級づくりシートの作成の仕方、学級課題の見方や対応の仕方を指導してくださいました。先生方の習熟度が高まるよう画面を共有して丁寧に説明したり、タブレットと一緒に操作したりしてくださいました。

学級経営については、様々な著作やアイデア集がありますし、指導者による違いも見られます。WEBQUを活用する「居心地のよい学級づくり」は、ルールとリレーションによる安定度や活性度等からなる統一した物差しで学級づくりをサポートする十日町市共通の取組です。管理職によるスーパーバイズを受けて学級の状況を全校体制で把握して支援することができます。

学級の安定度を高めるルールの徹底については、子どもが学級目標達成のためのルールであることを理解することが大切です。中・高学年になると「きまりだから従いなさい」といった言葉は子どもの反発をまねきかねません。また、教師が子どもたちの前で特定の子どもにルール違反を注意する指導行動は、多くの子どもに「その子に対して注意すること」を許容するようなものです。ルールを破る子どもに対しては、よく言い分を聞き時間をかけて話し合います。学級目標を達成するためにみんなで話し合って決めたルールだということを内在化させて守ることが学級の安定度を高めることにつながります。

全校一斉方式のソーシャルスキル教育については、次の手順が有効です。

- ① まず、全校一斉の集会で教示（インストラクション）を行います。そこでは、なぜソーシャルスキル教育を全校でやるのが大切なのかを子どもに丁寧に説明する必要があります。たとえ毎年やることであっても4月には全校にソーシャルスキル教育の目的を伝えた上で実施しないと、実践化を促すことにつながっていきません。
- ② 全校に対して教師がモデリング（やってみせる）をします。
- ③ 全校集会が終わったら、教室に戻りリハーサル（させてみる）を行います。ペアを変えながら繰り返し、誰とでもできるようにします。
- ④ 教師はリハーサルを見ながら、フィードバック（ほめる、ふりかえる）を行います。
- ⑤ 2週間くらい般化（日常生活場面での実践）を促す取組を全校体制で行います。家庭と連携して行くと効果が増します。

主体的・対話的で深い学びを目指すためには、「聴き合うスキル」を取り入れて、子どもたちが聴き合う関係を身に付けられるようにします。他者の声を